

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月7日
【四半期会計期間】	第91期第3四半期（自平成29年7月1日至平成29年9月30日）
【会社名】	株式会社福田組
【英訳名】	FUKUDA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 太田 豊彦
【本店の所在の場所】	新潟市中央区一番堀通町3番地10
【電話番号】	025(266)9111（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 山本 武志
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段北3丁目2番4号
【電話番号】	03(5216)4888(大代表)
【事務連絡者氏名】	東京本店管理部長 長谷川 和憲
【縦覧に供する場所】	株式会社福田組東京本店 （東京都千代田区九段北3丁目2番4号） 株式会社福田組名古屋支店 （名古屋市中区丸の内3丁目23番8号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第3四半期連結 累計期間	第91期 第3四半期連結 累計期間	第90期
会計期間	自平成28年 1月1日 至平成28年 9月30日	自平成29年 1月1日 至平成29年 9月30日	自平成28年 1月1日 至平成28年 12月31日
売上高 (百万円)	123,501	116,956	172,749
経常利益 (百万円)	7,361	6,166	9,888
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	5,710	3,856	8,482
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,489	4,182	8,489
純資産額 (百万円)	51,849	57,721	54,848
総資産額 (百万円)	122,871	125,329	119,588
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	639.74	435.06	950.33
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.7	45.6	45.4

回次	第90期 第3四半期連結 会計期間	第91期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年 7月1日 至平成28年 9月30日	自平成29年 7月1日 至平成29年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	143.46	159.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成29年7月1日を効力発生日として、5株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社につきましても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間における売上高は、工事の発注時期のズレや着工時期の遅れによる建設事業での手持工事の進捗状況が伸び悩み、かつ不動産事業も減少していることから、前年同四半期と比べて5.3%減の1,169億円余となりました。

利益面では、売上高の減少に伴い、売上総利益が前年同四半期と比べて9.1%減の131億円余となり、不動産案件減少に伴い販売費も減少したものの、営業利益は16.6%減の59億円余となりました。

また、欠損金控除額の減少により法人税等が増加したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期と比べて32.5%減の38億円余となりました。

報告セグメント等の業績は次のとおりであります。

(建設事業)

売上高は前年同四半期と比べ3.9%減の1,146億円余となり、セグメント利益については前年同四半期と比べて5.8%減の58億円余となりました。

(不動産事業)

売上高は前年同四半期と比べ48.3%減の20億円余となり、セグメント利益については前年同四半期と比べて79.2%減の2億円余となりました。

(その他)

売上高は前年同四半期と比べ3.8%増の4億円余となり、セグメント利益については20百万円余(前年同四半期はセグメント損失0百万円余)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状況につきまして、資産については、売上債権の回収が順調に進んだことから、受取手形・完成工事未収入金等は減少したものの、回収資金を月次の下請負代金等の支払に備え、現金預金が増加したため、前連結会計年度末に比べ総資産は57億円余増加し、1,253億円余となりました。

負債については、大型工事の終了などに伴い、支払手形・工事未払金の減少が生じたものの、多額の未払消費税が生じることなどにより、前連結会計年度末に比べ28億円余増加の676億円余となりました。

純資産については、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことから利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末に比べて28億円余増加し、577億円余となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、124百万円余であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

(注)平成29年3月28日開催の第90回定時株主総会において、株式の併合に関する議案(5株を1株に併合)が可決されたため、同年7月1日をもって、当社の発行可能株式総数は80,000,000株減少し、20,000,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,988,111	8,988,111	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	8,988,111	8,988,111	-	-

(注)平成29年3月28日開催の第90回定時株主総会の決議により、同年7月1日を効力発生日として株式併合(5株を1株に併合)を実施したため、発行済株式総数は35,952,446株減少し、8,988,111株となっております。また、同年2月24日開催の取締役会の決議により、同年7月1日付にて当社の単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成29年7月1日	35,952,446	8,988,111	-	5,158	-	5,996

(注)平成29年3月28日開催の第90回定時株主総会決議に基づき、同年7月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。これにより、発行済株式総数は35,952,446株減少し、8,988,111株となっております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 570,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 44,130,000	44,130	-
単元未満株式	普通株式 240,557	-	-
発行済株式総数	44,940,557	-	-
総株主の議決権	-	44,130	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「株式給付信託(J-ESOP)」制度及び「役員株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式189,000株(議決権189個)が含まれております。
2. 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式827株が含まれております。
3. 平成29年3月28日開催の第90回定時株主総会の決議により、同年7月1日を効力発生日として株式併合(普通株式5株を1株の割合で併合し、発行可能株式総数を1億株から2千万株に変更)を実施したため、当社の発行済株式総数は35,952,446株減少し、8,988,111株となっております。また、同年2月24日開催の取締役会の決議により、同年7月1日付にて当社の単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)福田組	新潟市中央区一番堀通町3番地10	570,000	-	570,000	1.27

- (注) 1. 上記のほか、「株式給付信託(J-ESOP)」制度及び「役員株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式189,000株は、上記自己名義所有株式数に含めておりません。
2. 平成29年3月16日開催の取締役会決議に基づき、第1四半期会計期間において自己株式450,000株(株式併合前)の取得を実施しております。
3. 平成29年7月1日を効力発生日とする株式併合(普通株式5株を1株の割合で併合し、発行可能株式総数を1億株から2千万株に変更)を実施したため、当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は、114,522株となっております。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	17,541	41,859
受取手形・完成工事未収入金等	4,544,74	4,404,844
有価証券	0	100
販売用不動産	693	497
未成工事支出金	4,220	2,390
不動産事業支出金	422	489
その他のたな卸資産	293	323
繰延税金資産	972	1,113
その他	8,111	3,760
貸倒引当金	22	17
流動資産合計	86,706	91,364
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	20,291	21,590
機械、運搬具及び工具器具備品	13,479	13,623
土地	14,279	14,692
その他	741	669
減価償却累計額	24,420	25,299
有形固定資産合計	24,370	25,276
無形固定資産		
のれん	691	543
その他	725	733
無形固定資産合計	1,416	1,276
投資その他の資産		
投資有価証券	5,007	5,458
長期貸付金	52	138
退職給付に係る資産	849	886
繰延税金資産	536	305
その他	1,266	1,244
貸倒引当金	617	619
投資その他の資産合計	7,093	7,412
固定資産合計	32,881	33,965
資産合計	119,588	125,329

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	4,425,503	39,811
短期借入金	2,047	1,400
未払法人税等	986	1,774
未成工事受入金等	7,126	7,836
引当金		
賞与引当金	-	2,397
その他の引当金	339	485
引当金計	339	2,883
その他	4,320	5,167
流動負債合計	57,323	58,873
固定負債		
長期借入金	1,052	2,174
繰延税金負債	87	110
再評価に係る繰延税金負債	877	900
引当金	294	309
退職給付に係る負債	2,823	2,791
その他	2,281	2,448
固定負債合計	7,416	8,734
負債合計	64,740	67,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,158	5,158
資本剰余金	6,132	6,132
利益剰余金	42,381	45,431
自己株式	269	742
株主資本合計	53,403	55,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,165	1,297
土地再評価差額金	22	22
退職給付に係る調整累計額	304	192
その他の包括利益累計額合計	883	1,127
非支配株主持分	560	613
純資産合計	54,848	57,721
負債純資産合計	119,588	125,329

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高		
完成工事高	111,787	106,874
不動産事業売上高	3,864	1,967
その他の事業売上高	7,849	8,114
売上高合計	123,501	116,956
売上原価		
完成工事原価	98,959	94,512
不動産事業売上原価	2,343	1,468
その他の事業売上原価	7,749	7,840
売上原価合計	109,053	103,821
売上総利益		
完成工事総利益	12,827	12,361
不動産事業総利益	1,520	498
その他の事業総利益	99	274
売上総利益合計	14,448	13,134
販売費及び一般管理費	7,266	7,142
営業利益	7,181	5,992
営業外収益		
受取利息	7	5
受取配当金	86	104
持分法による投資利益	8	11
貸倒引当金戻入額	66	0
その他	138	165
営業外収益合計	307	286
営業外費用		
支払利息	53	30
シンジケートローン手数料	39	35
前払金保証料	25	28
その他	9	18
営業外費用合計	127	112
経常利益	7,361	6,166
特別利益		
固定資産売却益	15	10
投資有価証券売却益	14	0
関係会社株式売却益	-	31
抱合せ株式消滅差益	-	15
その他	6	13
特別利益合計	37	70
特別損失		
固定資産除却損	41	19
減損損失	28	16
抱合せ株式消滅差損	-	34
その他	7	3
特別損失合計	76	73
税金等調整前四半期純利益	7,322	6,164
法人税、住民税及び事業税	1,361	2,199
法人税等調整額	174	26
法人税等合計	1,536	2,226
四半期純利益	5,785	3,938
非支配株主に帰属する四半期純利益	75	82
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,710	3,856

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	5,785	3,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	451	132
土地再評価差額金	46	-
退職給付に係る調整額	109	111
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	295	244
四半期包括利益	5,489	4,182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,416	4,100
非支配株主に係る四半期包括利益	73	82

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

下記の会社の金融機関からの借入金等に対して保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
合同会社A K Sアセット	642百万円	-	- 百万円
ホテル朱鷺メッセ(株)	106	ホテル朱鷺メッセ(株)	90
新潟万代島ビルディング(株)	103	新潟万代島ビルディング(株)	-
株ジオック技研	80	株ジオック技研	80
計	932	計	170

分譲マンションに係る手付金保証

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
1社	73百万円	1社	43百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
	16百万円		- 百万円

3 手形流動化に伴う買戻し義務限度額

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
	152百万円		50百万円

4 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権

四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日の満期手形及び電子記録債権が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	120百万円		194百万円
電子記録債権	-		25
支払手形	216		-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
減価償却費	977百万円	1,006百万円
のれんの償却額	148	148

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年2月26日 取締役会	普通株式	536	12	平成27年12月31日	平成28年3月30日	利益剰余金

(注)平成28年2月26日取締役会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年2月24日 取締役会	普通株式	806	18	平成28年12月31日	平成29年3月29日	利益剰余金

(注)平成29年2月24日取締役会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

(自己株式の取得)

当社は、平成29年3月16日開催の取締役会の決議に基づき、自己株式450千株(株式併合前)の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が471百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が742百万円となっております。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得につきましては、平成29年3月17日をもって終了しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	建設	不動産	計		
売上高					
外部顧客への売上高	119,228	3,884	123,112	388	123,501
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	20	22	0	23
計	119,230	3,904	123,135	389	123,524
セグメント利益又は損失()	6,238	1,059	7,298	0	7,297

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,298
「その他」の区分の利益又は損失()	0
セグメント間取引消去	13
全社費用(注)	130
四半期連結損益計算書の営業利益	7,181

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「建設」セグメントにおいて、事業用不動産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において28百万円であります。

当第3四半期連結累計期間（自平成29年1月1日至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	建設	不動産	計		
売上高					
外部顧客への売上高	114,580	1,973	116,553	403	116,956
セグメント間の内部売上高 又は振替高	25	46	71	0	72
計	114,605	2,019	116,625	404	117,029
セグメント利益	5,874	220	6,094	20	6,115

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	6,094
「その他」の区分の利益	20
セグメント間取引消去	4
全社費用(注)	127
四半期連結損益計算書の営業利益	5,992

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない遊休資産で、売却の決定がなされた売却予定資産について、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において16百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	639円74銭	435円06銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	5,710	3,856
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	5,710	3,856
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,926	8,863

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「株式給付信託(J-ESOP)」制度及び「役員株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期

中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（当第3四半期連結累計期間37,880株、前第3四半期連結累計期間13,820株）。

- 3．平成29年7月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を行ったため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたものと仮定して、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月7日

株式会社福田組

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江島 智 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 塚田 一誠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社福田組の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社福田組及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。